

四稜郭(国史跡)(函館市陣川町)

四稜郭（しりょうかく）は、箱館戦争の際に蝦夷共和国（箱館政権）が、明治2年（1869年）に現在の北海道函館市に築城した堡壘。

立地と概要

空堀に囲まれ、規模は東西約100メートル、南北約70メートル、周りには幅5.4メートル、高さ3メートルの土塁が巡らされ、土塁の周辺には幅2.7メートルの、深さ0.9メートルの空濠が掘られている。四隅には砲座が配置されている。南西側に門口があり、その後方に幅0.9メートルほどの通路が設けられている。郭内には建物は建設されなかったようである。面積約2万1,500平方メートルを有する。4つの突起を持つためこの名がある。別称は、新台場、神山台場、新五稜郭などある。

五稜郭を援護する支城として、また東照宮を守護する為に北東約3キロメートル離れた丘陵上に洋式築城法により築かれた。建設には旧幕府兵卒200人および近隣住民100人が徴用され、昼夜兼行の突貫工事で造り上げたと言われる。しかし、堡壘としては脆弱であり、立て籠もるには手狭で井戸等の設備も存在しなかった。星形要塞であるものの、実際には野戦築城に近いものである。

四稜郭以外に当時造られた星形要塞としては、七飯台場がある。こちらは漫画の吹き出しのような七稜形である。

建設を指揮したのは大鳥圭介あるいはブリュネ大尉といわれている。

昭和9年（1934年）国の史跡に指定された。

5月には、付近一帯はスズランの花畑となる。

2002年5月26日のNHK「新・クイズ 日本人の質問」において「五稜郭を見るうえで重要なもの」として、四稜郭が紹介された。

Wikipediaによる



四稜郭土塁



四稜郭のステレオ空中写真（1976年）

1868（明治元）年の箱館戦争に際して旧幕府脱走軍が五稜郭の北方約3kmの高台に築いた西洋式の土塁跡。蝶の羽を広げたような形状。国指定の史跡。

五稜郭から北方約3キロ先の高台にある四稜郭は、旧幕府脱走軍が主戦場となる函館を一望でき、五稜郭の鎮守府だった東照宮を守るために築かれました。蝶の羽を広げたような形状で、陸軍奉行大鳥圭介が設計したとの説があります。

1869（明治2）年4月下旬の数日間で築いたとされる四稜郭。兵士約200人と地域住民約100人が動員され、広さ約2300平方メートルの郭内の四隅に砲座を設け、稜堡の周囲には幅5.4メートル、高さ3メートル

ルの土塁と、幅 2.7 メートル、深さ 0.7 メートルの空壕が巡らされました。急造だったため建物はなく、同年 5 月 11 日早朝に新政府軍の攻撃を受け、数時間で陥落したそうです。

1934（昭和 9）年 1 月に国指定の史跡となった後、1969（昭和 44）年から約 4 年をかけて、土塁修復などの整備工事が行われ、記念碑が建てられました。四稜郭の周囲は木々が立つため、五稜郭タワーの展望台からその位置を確認するのは困難。逆に、標高 101 メートルに位置する四稜郭からは、草木の間に五稜郭タワーを望め、そのもとにある縁深い五稜郭を結ぶ道が浮かび上がるようです。

函館市公式観光情報サイトによる

